

# 「愛妻家聖地」で夫たち競う

## キャベツ畑の中心で愛を叫ぶ



コンテストの会場予定地周辺を下見する愛妻家聖地委員会のメンバーら

高原キャベツの産地として知られ、愛妻伝説を村名の由来とする群馬県嬭恋村で9月10日、「キャベツチャー（キャベツ畑の中心で愛を叫ぶ）」と題するコンテストが初めて開かれる。夫たちが絶叫する「妻にささげる言葉」を競う催し。「セカチュー」と呼ばれて映画やドラマもヒットした小説「世界の中心で、愛をさけぶ」にあやかり、村を「愛妻家の聖地」として売り出す作戦だ。

嬭恋村には、日本武尊が東征中に亡き妻をしのんで「あずまはや（ああ、わが妻よ、恋しい）」と嘆いたという伝説が残る。村で週

### 群馬・嬭恋村 9月にイベント

末農業を楽しむ首都圏のグループがこの伝説に着目して2004年秋、村を総本部に日本愛妻家協会を設立。今年1月には、村と協会などが「愛妻家聖地委員会」(会長・松本先村長)を発足させ、「キャベチュー」を発案した。

コンテスト会場は、浅間山を望む収穫最盛期のキャベツ畑。公募した男性20、30人が「妻への愛の言葉」を絶叫、村内在住の女性10人らが審査する。協会の山名清隆事務局長(46)は「ふだんは恥ずかしくて言えない『愛の絶叫』が、多くの夫に勇気を与える機会になれば」と話している。

応募の受け付け開始は7月中旬で、8月末に締め切りの予定。問い合わせは、同委員会(0279・96・1257)へ。